

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100363		
法人名	シルバーハウス株式会社		
事業所名	グループホーム びえいの郷		
所在地	上川郡美瑛町大町2丁目5番14号		
自己評価作成日	令和 2年 7月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年 8月 13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173100363-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 2年 7月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

びえいの郷の理念は介護の理念のみならず、職員に対しての理念でもあり、入居者、職員の区別無く「あるがままに一人ひとりの個性を尊重し…共に暮らし、そして支えあう」ことを念頭に置き日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

合同会社

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所の目に付く所に提示したり、名札の裏に入れて常に意識し、管理者と職員で実践できるように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、広報等で地域のイベント等の情報を収集し参加を募ったり、幼稚園児の訪問も毎年受け入れ、事業所のお祭りや行事は回覧でご案内を回し、ボランティアやご近所の方々と交流の機会を作っている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議で認知症についての情報交換や事例検討を行い、運営推進会議では入居者様の状況や認知症についての質問を受け付け理解して頂けるよう話し合っている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催して、ご家族や地域の方の参加を募り、現況の報告や意見交換を行いサービスの向上につなげている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1度の役場主催の地域ケア会議や研修会に参加し、各事業所との情報交換や意見交換・事例検討を行い、各事業所同士と連携しサービスの向上に心がけている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部や内部研修を行い、身体拘束をしないケアについて話し合い確認し実践している。玄関の施錠は、安全防犯のためであり拘束の意味合いではない。外出希望の方には自由に施錠を解除している。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務改善会議の中で虐待防止に関する研修を行い、職員一人ひとりが自己評価を行う機会を作り、話し合い振り返る機会を作っている。職員間でも、声掛けを行える関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度の研修を職場内・外で参加する機会を作り、制度を学び理解する出来るよう努めている。活用している利用者様がいるので、関係機関と相談しながら連携を図り対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時には十分に説明を行い、理解できるまで説明や話し合いを行っている。不安がある場合は、体験入居等を勧める等の柔軟な対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方は、日常の会話での確認や選択の機会を作り、意見や要望を把握している。ご家族の方は、アンケート調査や会議や面会時に意見等を表せられる機会を設け、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務改善会議を開催し、職員から意見や要望を提案できる機会を作っている。職員が意見しやすい環境作りや人間関係にも努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、働きやすくやりがいのある職場環境や労働条件の改善の為に、職員の実績や努力を把握し意見や要望を確認し、代表者に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てて職場内研修を行ったり、職場外の研修に積極的に参加できる機会を作っている。職員の資格取得の際には、費用の一部補助を行う支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	町役場主催の会議や講習会の参加により、他事業所と交流する機会を得て、利用者様の紹介や情報交換をしサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には、ご本人の願いや要望を把握し、柔軟な対応をし、不安なく安心して暮らして頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前の相談で、家族の要望や不安等を確認し、幅広く選択しを提案する事で柔軟な対応が出来るように努めている。入居後も、毎月のお便りにて日々の生活の様子を知らせる事で、ご家族の不安解消や信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時、幅広い選択肢を提案しながら、必要とされるサービスをご家族と相談し、他に適しているサービスがある場合は、連絡を取り相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の「共に暮らし、支えあい」を心がけて、家庭的な雰囲気作りをし、穏やかに過ごして頂けるような関係性を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況も踏まえ、ご本人らしい暮らしができるか相談し、共に支えあえるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅が心配で様子を見に行きたいと要望があれば一緒に同行し安心できるよう支援しています。知り合いの方が気兼ねなく会いに来られるような雰囲気作りに努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が円滑な関係を維持できるように、レクリエーション等の活動の機会を多く取り入れ、職員も参加し円満な関係を維持できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で契約が終了となった後も、必要に応じ入院中の洗濯やオムツ等の補充等を行い、ご家族の要望に応え柔軟な対応をして負担や不安を軽減できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、ご本人やご家族から生活に対する希望や意向を伺い、入居後も日常の関わりあいで、表情や行動からも思いを察し、本人の思いに寄り添ったサービスが出来るように話し合いながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からこれまでの生活習慣や、利用しているサービスを把握し、ご本人が望んでいる生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり1日の過ごし方や心身の状態が違うので生活のリズムを把握し、無理なく力が発揮できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の生活の意向や願い等を確認して介護計画を作成しています。より良いサービスの提供ができるため、職員の意見も聞き取りアイデアに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、小さな変化などは個別の気づきノートに記入し、会議等で情報を確認し話し合い、ケアの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望を確認し、協力出来る事は支援できるよう柔軟な対応を心がけて取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店に食事に行ったり買い物に行ったり、温泉施設も活用している。少人数で出かけゆっくり楽しむ機会もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の協力病院への受診が主になるが、ご本人やご家族の要望に応え、慣れ親しんだ病院をそのまま継続して受診する等地域を広めた対応をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員を配置しており、介護職員との引継ぎで、心身の状況や対応を報告し指示を受けている。また、行きつけの医療機関と連携が取れており適切な受診が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が同行し本人の情報を提供し治療の内容の確認をしている。入院中は洗濯物やバット等の補充を行い、ご家族の負担の軽減に努めている。退院時も同行し、情報を得て適切な対応が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族から終末期の意向を確認し、事業者が出来る事の説明をしている。入退院が繰り返される場合は、主治医やご家族と話し合い、ご本人が望まれる対応が出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で、年1回救急救命心肺蘇生法やAEDの取り扱い方を学び、実践力を身に付けている。隣接する施設には、AEDを設置し急変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で、日中と夜間に避難訓練を行っている。停電時に備え、発電機を設置した。非常災害時の物品を備蓄し、災害時の対応マニュアルを作成し避難経路等も全体会議等で周知している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場内ではプライバシーの保護や接遇の研修を会議等で行い職員全体で確認し、実践につなげています。理念にも掲げ、常に意識した対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断に迷いがある時は、アドバイスや選択肢を用意して自己決定できるよう配慮している。日常生活の中では、本人が自分の思いを言えるような雰囲気作りも力を入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のペースや生活のリズムに合わせ、食事の時間を遅らす等の柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の時は、事前に希望を聞き、パーマや毛染め等でその人らしいお洒落を楽しめるよう支援している。入浴等での着替えでは、2択にする等の工夫を行い、混乱なく選択ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食に、ホットプレートでジンギスカンをして食べたり、おやつにホットケーキを作り、混ぜたりひっくり返したりして、楽しむ機会を取り入れている。外食の機会も取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じ、副食を刻む大きさを変えたり、ペースト状で提供するなど一人ひとりに合わせて提供している。食事量や水分の摂取量はチェック表に記入し、職員全体で把握しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄剤を使用して消毒し、清潔を保持できるように支援している。一人ひとりの口腔内の状態に合わせた用具を準備している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排泄間隔を把握して訴える事が難しい方は、表情や行動からトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用の他に、定時にテレビ体操を取り入れ適度な運動の機会を作っている。飲み物の種類を増やし好みの物を提供し、必要なカロリーや水分量の確保が出来るよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴は週2回で、入浴剤を使用しゆっくりくつろいで頂けるように工夫しています。年に2～3回温泉に出かけ楽しんでもらう機会を作っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、声掛けを行い休息を勧める等の対応を心がけ、温度や湿度にも気を配り、気持ちよく過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用しているお薬の使用目的や副作用、用法や容量等の説明書は個人ファイルに入れ職員がすぐに確認できるようにしている。通院時に薬の変更があった場合は、受診記録簿に記載し職員全体で周知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事では、外出の機会を取り入れ気分転換をして頂いています。一人ひとりの得意な事を生かして、趣味活動や役割につなげ日々の生活に張り合いや楽しみに繋がるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者を確認し天候や体調を考慮し散歩等の外出支援を行っている。家が心配で見えてきたいとの希望があれば、同行して納得して頂けるよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は通常事務所にて預かっているが、本人の希望で小遣い程度のお金を持参されている方もおり、面会時にご家族に確認して頂いている。事務所にて預かっているお金は、毎月金銭出納帳をお送りして報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でご家族や知り合いに電話を掛けたり、電話の取り次ぎの支援をしている。手紙が来た場合は、希望があれば代読する支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等には、行事毎の写真や季節の飾りつけを行に、生活感や季節感を感じてもらえるように工夫している。定時に、湿度と温度を測定して居心地よく過ごして頂けるよう支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先には椅子を配置し、一人になれる場所を確保している。気の合う利用者を見極め、隣同士に座って頂くなどの配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持ってきて頂き、居心地の良い環境を提供できるように支援している。家具の配置等はご本人様の状況に合わせカンファレンスにて話し合いをし、安全に移動等ができるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間の物も配置は、定期的に話し合いをして見直し安全に移動ができるか、危険な所がないか等を検討している。自立した活動が出来るように、居室・トイレ・浴室等は分りやすく表記している。		